

事業名：公共街路灯新設更新等事業

【事業番号 241】

土木事務所道路管理課 維持係

政策	04 安全・安心	戦略	
取組の基本方針	01 安全な暮らしの確保	具体的施策	
開始年度	昭和42年度	終了年度	—
	区分1	継続	区分2 補助 補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内幹線道路等 約 L=99Km
 (令和2年度より指標を幹線道路延長に変更)

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 市内幹線道路等	Km	187.38	187.38	187.38	99
対象指標 2					

手段（事務事業の内容、手法）

道路ストック総点検事業により、平成25年、26年に公共街路灯を点検し、その診断判定結果に基づき効果的に更新工事を実施する。
 社会資本整備総合交付金を活用し実施する。(6/10)

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 更新灯数	基	96	86	63	16
活動指標 2					

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

公共街路灯の更新により、その機能の維持・向上と、夜間の地域環境の向上が図られる。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 公共街路灯数	基	3,313	3,382	3,488	3,448
成果指標 2 街路灯点検結果による更新が必要な灯数 (H26点検)	基	398	398	398	398

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)	千円	66,755	52,304	55,316	39,600
正職員人件費 (B)	千円	1,524	6,102	3,075	3,096
総事業費 (A+B)	千円	68,279	58,406	58,391	42,696

事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
元年度 道路照明設備点検事業により判明した老朽化による倒壊危険度が高い公共街路灯の更新、撤去	工事費 55,316千円

事業開始背景

街路灯の老朽化に伴う更新のため事業が開始された。

事業を取り巻く環境変化

道路法第2条第2項に規定される道路附属物として一元的な管理を行うため、平成26年度より土木事務所道路管理課に事務移管を行なった。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由根拠	平成25、26年の2カ年で実施した道路照明設備点検の結果に基づき、平成25年度から腐食度が高く、倒壊の恐れのある公共街路灯について更新を実施している。
	どちらかといえば上がっている		
	上がっていない		

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由根拠	道路照明設備点検の結果に基づき修繕計画を策定することにより、今後、国の補助事業を活用した計画的な更新が図られる。
	成果向上余地 中		
	成果向上余地 小		

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由根拠	修繕計画を策定することにより、補助事業の活用が図られる。
	なし		

事業名：空家等対策推進事業

建築指導課

政策	04 安全・安心			戦略					
取組の基本方針	01 安全な暮らしの確保			具体的施策					
開始年度	平成30年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	補助	補助金	政策的補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内全域の空き家

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市内全域の空き家（推計）	棟	0	300	300	300
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

空き家等がもたらす課題の解消に向け、空家等対策計画に基づき、所有者等の管理意識の醸成と関係団体との連携による発生抑制及び利活用の推進を図るとともに、空き家等対策の情報発信や相談体制を整備する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	空き家に関する相談・指導件数	件	0	159	83	79
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

危険空き家等への対応及び空き家等の利活用により、安全で安心な住環境を確保する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	管理不全な空き家の解消件数	件	0	14	35	22
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	0	203	872	1,785
正職員人件費 (B)		千円	0	16,017	9,224	14,708
総事業費 (A+B)		千円	0	16,220	10,096	16,493

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	<ul style="list-style-type: none"> 空家等対策協議会の開催 啓発パンフレットの作成等 特定空家等の認定 危険空き家等への応急対応 特定空家等の除却・解体支援 	<ul style="list-style-type: none"> 空家等対策協議会運営費：172千円 啓発パンフレット作成経費等：100千円 特定空家等解体補助金：600千円 	

事業開始背景
空き家等がもたらす課題の解消に向け、空家等対策計画に基づき、発生抑制・適正管理の推進、特定空家等への対応、利活用の推進などの空き家等対策を総合的かつ計画的に実施する
事業を取り巻く環境変化
近年、人口減少や少子高齢化による家族構成の変化、住宅ストックの余剰等の社会情勢の変化等により、全国的に空家等が年々増加している。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）							
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？							
成果動向及び原因分析	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="3">平成30年3月に江別市空家等対策計画を策定し、計画に基づいて空き家等対策を推進している。</td> </tr> <tr> <td>どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	▶	平成30年3月に江別市空家等対策計画を策定し、計画に基づいて空き家等対策を推進している。	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	▶				平成30年3月に江別市空家等対策計画を策定し、計画に基づいて空き家等対策を推進している。	
どちらかといえば上がっている							
上がっていない							
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？							
成果向上余地	<table border="1"> <tr> <td>成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="3">空き家等の管理意識の醸成を図り、関係団体等との連携を着実に進めることで、適正管理の推進や特定空家等への対応、利活用の推進などの空き家等への対策を進める。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td>成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	空き家等の管理意識の醸成を図り、関係団体等との連携を着実に進めることで、適正管理の推進や特定空家等への対応、利活用の推進などの空き家等への対策を進める。	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	▶				空き家等の管理意識の醸成を図り、関係団体等との連携を着実に進めることで、適正管理の推進や特定空家等への対応、利活用の推進などの空き家等への対策を進める。	
成果向上余地 中							
成果向上余地 小							
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？							
コスト	<table border="1"> <tr> <td>ある</td> <td rowspan="2" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="2">予算措置は、空家等対策協議会運営費、危険空家等への応急対応資材費、特定空家等解体補助金等であるため、予算削減は難しい。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	▶	予算措置は、空家等対策協議会運営費、危険空家等への応急対応資材費、特定空家等解体補助金等であるため、予算削減は難しい。	なし	
ある	理由 根拠	▶				予算措置は、空家等対策協議会運営費、危険空家等への応急対応資材費、特定空家等解体補助金等であるため、予算削減は難しい。	
なし							

事業名：河川等維持事業

土木事務所治水課

政策	04 安全・安心	戦略	
取組の基本方針	02 地域防災力の向上	具体的施策	
開始年度	昭和57年度	終了年度	—
	区分1	継続	区分2 単独 補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

江別市が管理する河川及び調整池

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 準用河川及び普通河川数	河川	25	25	25	25
対象指標 2 調整池数	ヶ所	27	27	27	27

手段（事務事業の内容、手法）

江別市が管理する河川及び調整池において発生した不良箇所を解消するための工事等を行う。
 1) 法面補修工事、浚渫工事
 2) 管理用道路補修工事
 3) 調整池における防護柵補修など

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 河川・調整池の補修等工事件数	件数	9	3	10	3
活動指標 2					

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

河川や調整池が、本来発揮すべき機能を維持する。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 河川・調整池の不良箇所数	件数	7	3	10	2
成果指標 2					

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)	千円	9,782	7,933	7,622	10,339
正職員人件費 (B)	千円	2,285	2,288	2,306	2,322
総事業費 (A+B)	千円	12,067	10,221	9,928	12,661

事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
元年度 市が管理する準用河川・普通河川の床ざらい等 計画的又は緊急的に必要となる河川維持	準用河川床ざらい工事（豊幌川） 3,267千円 中樹林集水路床ざらい工事 1,833千円 その他緊急工事 2,000千円

事業開始背景

床ざらい等により河川・集水路の流下能力を確保し、大雨などによる河川等の氾濫を防ぐ。

事業を取り巻く環境変化

近年、全国的に予測不能かつ集中的な降雨状況となっており、より適切な河川管理が求められている。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	▶	河川等の床ざらいについて、概ね予定通り。
	どちらかといえば上がっている			
	上がっていない			

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	一般財源のみの予算では成果をあげることは難しいが、令和2年度に新設（令和6年度まで）された緊急浚渫推進事業（起債事業）を活用することにより、一般財源の削減又は成果向上の余地あり
	成果向上余地 中			
	成果向上余地 小			

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？

コスト	ある	理由 根拠	▶	すでに河川の機能を維持するための最小限の費用であるが、令和2年度に新設（令和6年度まで）された緊急浚渫推進事業（起債事業）を活用することにより、一般財源の削減又は成果向上の余地あり
	なし			

事業名：排水機場維持管理事業

土木事務所治水課

政策	04 安全・安心	戦略						
取組の基本方針	02 地域防災力の向上	具体的施策						
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	補助	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

排水機場

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	排水機場数	箇所	18	18	18	18
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

巡回・点検整備を行う。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	維持管理経費	千円	57,552	67,855	61,751	67,831
活動指標 2	施設巡回・点検回数	回	9	9	9	9

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

緊急運転時に対応できる機能を維持する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	不具合件数	件	0	0	0	0
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	57,552	67,855	61,751	67,831
正職員人件費 (B)		千円	4,571	4,576	4,612	6,193
総事業費 (A+B)		千円	62,123	72,431	66,363	74,024

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	水害時に備えた施設の点検、整備、修繕及び緊急運転 対応など 排水機場（18機場）の月次点検 施設の法定点検 排水機場等施設修繕 大雨時の緊急運転	排水機場（18機場）の月次点検費用 市内排水機場自家用電気工作物点検 市内排水機場緊急排水運転費 市内排水機場光熱水費 市内排水機場施設等修繕費	48,505千円 899千円 948千円 4,560千円 3,249千円

事業開始背景

大雨時に要する内水排除施設（排水機場）の維持管理。

事業を取り巻く環境変化

近年、全国的に予測不能かつ集中的な降雨が発生しており、適切な内水排除施設（排水機場）の維持管理が求められているが、老朽化による修繕費の増大が見込まれている。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	事後保全により不良箇所に対応を行ってきたが、老朽化により突発的な不具合箇所が多発し、予算が追いつかない。
	どちらかといえば上がっている		
	上がっていない		

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	施設老朽化が著しく、現状の予算では今以上の成果を上げることは難しい。
	成果向上余地 中		
	成果向上余地 小		

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由 根拠	既に施設の維持管理を実施する最小限の予算であり、これ以上のコスト削減は難しい。
	なし		

事業名：江別河川防災ステーション管理経費 土木事務所治水課

政策	04 安全・安心	戦略	
取組の基本方針	02 地域防災力の向上	具体的施策	
開始年度	平成14年度	終了年度	—
	区分1	継続	区分2 補助 補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

江別河川防災ステーション

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 施設数	施設	1	1	1	1
対象指標 2					

手段（事務事業の内容、手法）

江別河川防災ステーションの維持・管理を行う

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 開設日数	日	308	306	307	307
活動指標 2					

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

施設が適切に管理運営され、災害時に防災拠点として利用される。また、平常時には利用者が多目的に利用できるとともに、河川への防災意識の向上が図られる。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 不具合件数	件数	0	0	4	0
成果指標 2 利用者数	人	80,518	78,971	86,641	80,000

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)	千円	21,652	20,365	21,830	22,419
正職員人件費 (B)	千円	3,809	3,814	3,844	4,645
総事業費 (A+B)	千円	25,461	24,179	25,674	27,064

事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
元年度 災害時の活動拠点となる施設の維持管理業務 館内保守点検業務 施設等修繕	館内管理業務 13,080千円 燃料費 1,179千円 光熱水費 3,618千円 施設等修繕費 1,243千円

事業開始背景

水防活動の拠点及び、平時には一般者への防災意識向上を目的として建設した。

事業を取り巻く環境変化

平成16年度からは、各種イベントが開催され平時の利活用が進んでいる。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	来客数は横ばいであるが、過去5年平均と比較すると概ね増加している。 。
	どちらかといえば上がっている		
	上がっていない		

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	既に一定程度の利用者がおり、施設規模や地理的条件などから冬期間の集客を考慮すると、更なる成果の向上は難しい。
	成果向上余地 中		
	成果向上余地 小		

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由 根拠	・既に最低限のコストで施設運営している。 ・施設の老朽化が進んできていることから、今後、修繕等の運営コスト増が予想される。
	なし		

事業名：耐震化推進支援事業

建築指導課

政策	04 安全・安心			戦略					
取組の基本方針	02 地域防災力の向上			具体的施策					
開始年度	平成22年度	終了年度	令和 2年度	区分1	継続	区分2	補助	補助金	政策的補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

江別市耐震改修促進計画に基づく民間住宅の所有者及び、居住者又は居住予定者

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	対象建築物数	戸	1,390	4,656	4,656	4,656
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

同計画に基づき耐震化を促進するために木造住宅等の無料簡易耐震診断を実施する他、「江別市木造住宅耐震改修等補助金交付に関する要綱」により専門家が行う耐震診断、補強設計及び耐震改修工事の費用の一部を補助する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	補助金額	千円	660	60	920	2,289
活動指標 2	無料耐震診断を行った件数	件	3	9	1	10

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

現行の耐震基準に満たない既存建築物の耐震性能の向上を図り、地震による建築物の倒壊被害から市民の生命及び財産に対する被害を未然に防止する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	補助利用率	%	88	2.62	40.19	100
成果指標 2	補助金を受けた件数	件	4	1	2	9

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	1,448	69	942	2,309
正職員人件費 (B)		千円	6,856	6,864	7,687	7,741
総事業費 (A+B)		千円	8,304	6,933	8,629	10,050

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	<ul style="list-style-type: none"> ・無料簡易耐震診断 ・専門家が行う耐震診断、補強設計及び耐震改修工事への補助 ・支援制度のPR 	<ul style="list-style-type: none"> ・補強設計・耐震改修への補助 920千円（1/4は国費による交付金、1/2は道費による交付金） ・新規耐震パンフレットの製作・印刷 22千円 	

事業開始背景

・江別市耐震改修促進計画に基づき、建築物の耐震化を促進するため、対象市民を支援する。

事業を取り巻く環境変化

・北海道において進めていた、地震・津波にともなう詳細な被害想定調査である「平成28年度地震被害想定調査結果」が、平成30年2月に公表され、江別市内の調査データが提供された。
 ・北海道の「既存住宅耐震改修事業補助金交付要綱」が改正され、補助制度の拡充が図られた。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	▶	機会を見つけての積極的なPR等で成果があった。
	どちらかといえば上がっている			
	上がっていない			

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	補助制度メニューの拡大と、それぞれの補助金額の上限がアップされたことの更なる周知により、成果の向上が見込まれる。
	成果向上余地 中			
	成果向上余地 小			

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由 根拠	▶	耐震化を進める上で必要な事業であり、これ以上の削減は難しい。
	なし			

事業名：新栄団地建替事業

建築住宅課 住宅係

政策	05 都市基盤			戦略					
取組の基本方針	01 市街地整備の推進			具体的施策					
開始年度	平成22年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	補助	補助金	事業補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市営住宅（新栄団地、野幌団地及びあけぼの団地の一部）

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市営住宅管理戸数	戸	328	296	340	268
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

新栄団地、野幌団地及びあけぼの団地の一部を新栄団地に建替・集約する。
 新栄団地建替の設計、工事、既存住宅の用途廃止等を実施する。
 H30～H31 D棟建設，R2～R3 E棟建設，R4～R5 F棟建設

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	建設戸数	戸	48	0	48	0
活動指標 2	除却戸数	戸	0	32	4	72

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

老朽化し、狭隘な住宅を建て替えることにより、入居者が安全に安心して暮らせるようにする。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	団地改善率	%	43.9	48.6	56.4	71.6
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	798,111	360,006	912,293	502,023
正職工人件費 (B)		千円	6,856	6,864	6,918	6,967
総事業費 (A+B)		千円	804,967	366,870	919,211	508,990

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	<ul style="list-style-type: none"> 新栄団地D棟建設工事（建築工事・各種工事）【H30-H31継続事業】 新栄団地既存建物除却工事 	<ul style="list-style-type: none"> 新栄団地D棟建設工事 813,707千円 新栄団地既存建物除却工事 56,181千円 	

事業開始背景
良質な市営住宅の供給を図るため、「江別市営住宅長寿化計画」を策定し、市営住宅の建替事業を推進することとした。
事業を取り巻く環境変化
計画通りに市営住宅建替事業を実施している。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）						
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？						
成果動向及び原因分析	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;"> <p>新栄団地の建替が進むことで、団地改善率が向上し、市民の安全で安心できる生活が保たれる。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	<p>新栄団地の建替が進むことで、団地改善率が向上し、市民の安全で安心できる生活が保たれる。</p>	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	<p>新栄団地の建替が進むことで、団地改善率が向上し、市民の安全で安心できる生活が保たれる。</p>				
どちらかといえば上がっている						
上がっていない						
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？						
成果向上余地	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;"> <p>今後、計画に基づき事業を進めることで、成果が向上する。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	<p>今後、計画に基づき事業を進めることで、成果が向上する。</p>	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	<p>今後、計画に基づき事業を進めることで、成果が向上する。</p>				
成果向上余地 中						
成果向上余地 小						
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？						
コスト	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">ある</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;"> <p>計画段階から実施段階に移行し、建設コストがかかってくるが、効率的・効果的な建設手法等を検討し、必要最小限となる様努めている。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	<p>計画段階から実施段階に移行し、建設コストがかかってくるが、効率的・効果的な建設手法等を検討し、必要最小限となる様努めている。</p>	なし	
ある	理由 根拠	<p>計画段階から実施段階に移行し、建設コストがかかってくるが、効率的・効果的な建設手法等を検討し、必要最小限となる様努めている。</p>				
なし						

政策	05 都市基盤			戦略				
取組の基本方針	01 市街地整備の推進			具体的施策				
開始年度	平成 7年度	終了年度	令和元年度	区分1	継続	区分2	補助	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

都心地区（野幌駅周辺地区）

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	都心地区の面積	ha	240	240	240	0
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

・街路事業等を活用した道路整備を行う。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	道路整備延長	km	0.27	0.67	0.3	0
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

・野幌駅を中心とした幹線道路網や歩行者ネットワークの整備及び交通バリアフリー化等により、安全・円滑・快適な道路網が形成される。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	事業費進捗率（累計）	%	51	73	100	0
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	727,873	868,149	622,929	0
正職員人件費 (B)		千円	68,562	68,643	69,183	0
総事業費 (A+B)		千円	796,435	936,792	692,112	0

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	<ul style="list-style-type: none"> ○野幌駅南通（第2工区）の用地買収、物件補償及び整備工事 ○都市緑地等の整備工事 ○野幌駅南側駐輪場の整備工事 ○コミュニティ道路2の整備工事 	<ul style="list-style-type: none"> ○道路等工事費 500,525千円 <ul style="list-style-type: none"> ・野幌駅南通（第2工区）、都市緑地、野幌駅南側駐輪場、コミュニティ道路2等 ○用地買収費 20,084千円 <ul style="list-style-type: none"> ・野幌駅南通第2工区 ○物件補償費 61,561千円 <ul style="list-style-type: none"> ・野幌駅南通第2工区等 	

事業開始背景

江別の顔づくり事業は、市長公約第4次江別市総合計画「15万人都市プラン」の政策基軸に位置付けられ、平成7年度より都心地区整備計画の検討を開始し、「第5次江別市総合計画（H16～）」の位置付けを受けて、平成18年度より事業に着手している。本事業は、江別の顔づくり事業の基幹事業の一つとして実施する事業である。

事業を取り巻く環境変化

「江別の顔づくり事業」は、市の行財政改革と整合を図り、市の身の丈（財政計画）に合った事業規模としつつ、高い事業効果が求められている。本事業は、「江別の顔づくり事業」の基幹事業の一つとして、平成18年6月に都市計画決定、10月に事業に着手した。平成28年3月に、近年の建設コスト上昇等の社会的背景を受けて事業費の変更を行った。令和2年3月には、野幌駅南通が開通し、市の全ての基盤整備が完了した。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている どちらかといえば上がっている 上がっていない	理由根拠 ・平成18年6月20日に「江別の顔づくり事業」に係る都市計画決定を行うとともに、同年11月9日に連続立体交差事業の事業認可を取得し、事業に着手している。 ・平成23年10月23日に新しい野幌駅（鉄道高架）が開業した。 ・平成24年3月12日に南北の市街地をつなぐ中原通が開通した。 ・平成24年6月15日に新しい野幌駅舎が完成した。 ・平成25年1月14日に高架下を通る7丁目通が開通した。 ・平成25年3月21日に高砂地下歩道が開通した。 ・平成25年10月10日に高架下駐輪場が完成した。 ・平成25年12月27日に9丁目通が開通した。 ・平成27年9月30日に天徳寺グリーンモールが完成した。 ・平成27年12月18日に野幌駅南通第1工区が開通した。 ・平成30年8月21日に旭通が開通した。 ・令和2年3月26日に野幌駅南通第2工区が開通した。
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大 成果向上余地 中 成果向上余地 小	理由根拠 事業が完了し、当初想定していた成果指標に達したため。
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	ある なし	理由根拠 事業が完了したことにより、今後、新たにコストが生じることは無い。

政策	05 都市基盤			戦略				
取組の基本方針	01 市街地整備の推進			具体的施策				
開始年度	平成 7年度	終了年度	令和元年度	区分1	継続	区分2	補助	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

土地区画整理事業施行地区(野幌駅周辺地区)

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 施行地区の面積	ha	10.6	10.6	10.6	0
対象指標 2					

手段(事務事業の内容、手法)

・土地区画整理事業により、道路・駅前広場等の公共施設の整備や宅地の再配置を行う。
 <事業内容>
 (施行地区面積) 約10.6ha (事業施行期間) H18~H36 ※清算期間5ヵ年含む
 (公共施設整備) 都市計画道路、駅前広場等 (仮換地指定計画筆数) 111筆 ※宅地の再配置筆数
 (物件移転計画棟数) 92棟 (事業費) 約7.4億円 ※人件費除く

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 仮換地指定を行った筆数(累計)	筆	111	111	111	0
活動指標 2 物件移転を行った棟数(累計)	棟	92	92	92	0

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

・野幌地区の南北市街地の一体化など、利便性が高く快適な中心市街地を形成するため、駅周辺の公共施設等の整備改善を図る。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 事業費進捗率(累計)	%	88	97	100	0
成果指標 2					

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費(A)	千円	620,840	679,184	91,847	0
正職員人件費(B)	千円	60,944	38,135	23,061	0
総事業費(A+B)	千円	681,784	717,319	114,908	0

	事業内容(主なもの)	費用内訳(主なもの)
元年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 8丁目通整備工事 ○ 野幌駅周辺植栽工事 ○ 換地処分に伴う登記関連委託 ○ 電線地中化に伴う工事 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道路等工事費(8丁目通・植栽工事等) 58,019千円 ○ 換地処分に伴う登記関連等委託費 5,665千円 ○ 工事関連委託費(電線共同溝台帳作成等) 16,688千円 ○ 無電柱化に伴う工事費 2,279千円

事業開始背景	
<p>江別の顔づくり事業は、市長公約 第4次江別市総合計画「15万人都市プラン」の政策基軸に位置付けられ、平成7年度より都心地区整備計画の検討を開始し、「第5次江別市総合計画（H16～）」の位置付けを受けて、平成18年度より事業に着手している。 本事業は、江別の顔づくり事業の基幹事業の一つとして実施する事業である。</p>	
事業を取り巻く環境変化	
<p>「江別の顔づくり事業」は、市の行財政改革と整合を図り、市の身の丈（財政計画）に合った事業規模としつつ、高い事業効果が求められている。 本事業は、「江別の顔づくり事業」の基幹事業の一つとして、平成18年6月に都市計画決定、11月に事業計画決定を行い事業に着手した。 平成28年3月に、近年の建設コスト上昇等の社会的背景を受けて事業費の変更を行った。 令和元年11月には、換地処分のお知らせがなされ、区域内の土地・建物の登記が完了した。</p>	

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
<ul style="list-style-type: none"> 平成29年3月に111筆全ての仮換地指定が完了した。 平成29年12月に92棟全ての物件移転が完了した。 令和元年11月1日に、換地処分のお知らせ。 令和元年11月15日に、区域内の土地・建物の登記が完了した。 		
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
事業が完了し、当初想定していた成果指標に達したため。		
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	ある	理由根拠
	なし	
事業が完了したことにより、今後、新たにコストが生じることは無い。		

事業名：公園管理事業

都市建設課 公園係

政策	05 都市基盤		戦略					
取組の基本方針	01 市街地整備の推進		具体的施策					
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	補助	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市が管理する都市公園

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市が管理する都市公園数	箇所	230	230	230	232
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

- 施設の維持管理及び管理運営を指定管理者に委任する。
- 公園施設長寿命化計画に基づき、遊具等の改築を国の補助を受けて実施する。（補助率：1/2）

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	指定管理料（R2予算は市管理経費を含む）	千円	153,349	154,259	155,279	172,943
活動指標 2	改築遊具・施設数	施設	3	6	7	9

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

施設の維持管理・管理運営を適切かつ効率的に行い、市民が快適で安全に憩える公園とする。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	自主事案件数	件	15	16	17	5
成果指標 2	累計改築遊具・施設数	施設	6	12	19	28

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	247,039	286,564	270,298	374,144
正職員人件費 (B)		千円	14,855	22,500	24,214	24,384
総事業費 (A+B)		千円	261,894	309,064	294,512	398,528

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者による管理運営 公園施設長寿命化計画に基づく遊具等の改築及び修繕 アダプトプログラム 樹木管理（剪定、伐採等） 	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理料 改築関係工事費 維持補修関係工事費 維持補修関係委託料 	<ul style="list-style-type: none"> 155,279 千円 67,104 千円 9,494 千円 19,859 千円

事業開始背景

市が管理する都市公園の維持管理業務については、平成20年度より指定管理者制度を導入し、市民サービスの向上や管理経費の縮減を図っている。

事業を取り巻く環境変化

- ・市及び指定管理者は公園施設の安全対策を重点的に行っているが、その反面、公園管理に関する市民要望は年々多様化してきている。厳しい財政状況の下、市民のニーズに応えることが難しい状況となっている。
- ・遊具等の公園施設の改築・更新については、国の補助事業を導入し、公園施設長寿命化計画に基づいた施設改築を実施している。
- ・遊具改築における新規遊具の選考において、近隣小学校へのアンケート調査を実施し、利用者のニーズを踏まえた改築を実施している。
- ・遊具修繕に伴い使用禁止となる遊具については、修繕完了予定時期を明示するなど、利用者への修繕スケジュール周知を実施している。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由根拠	指定管理者制度導入により、公園管理業務の成果が徐々に表れている。また、平成27年度より公園施設長寿命化計画に基づいた施設改築を進めている。
	どちらかといえば上がっている		
	上がっていない		

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由根拠	コストの増加が見込まれるが、老朽化した遊具・施設の改築数を増加することにより、公園利用の促進や公園利用環境の向上が図られる。
	成果向上余地 中		
	成果向上余地 小		

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由根拠	効率的な維持管理を実施しており、更なるコスト削減は難しい。
	なし		

政策	05 都市基盤			戦略				
取組の基本方針	01 市街地整備の推進			具体的施策				
開始年度	平成15年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	補助	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市が管理する都市公園

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 市が管理する都市公園数	箇所	230	230	230	232
対象指標 2					

手段（事務事業の内容、手法）

- ・公園施設長寿命化計画に基づき、公園の再整備を国の補助を受けて実施する。（補助率：1/2）
- ・整備内容については地域の子供達や自治会の参加によるワークショップ会議により計画する。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 再整備公園数	箇所	1	1	1	1
活動指標 2					

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

- ・市民協働のシンボルとして地域に親しまれる公園にする。
- ・公園再整備に併せて、公園施設のバリアフリー化を図ることで、誰もが利用しやすい公園にする。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 累計再整備公園数	箇所	14	15	16	17
成果指標 2					

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)	千円	43,464	55,109	40,209	44,920
正職員人件費 (B)	千円	6,094	6,102	6,150	6,193
総事業費 (A+B)	千円	49,558	61,211	46,359	51,113

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
元年度	<ul style="list-style-type: none"> ・さくら公園再整備工事（東野幌町） 面積：約0.4ha 内容：遊具更新、バリアフリー化等 ・公園整備に向けたワークショップ及び実施設計 	<ul style="list-style-type: none"> ・整備工事費 34,899 千円 ・一般委託料 5,299 千円

事業開始背景

- ・地域からの修繕要望が高く、通常の維持管理だけでは対応できない身近な公園を対象として、平成2年度から「子供たちが参加できる公園づくり事業」として、事業着手した。
- ・平成15年度から「市民参加による公園づくり事業」として、事業を継続中である。

事業を取り巻く環境変化

当初は市単独費により事業を実施していたが、平成25年度に策定した「公園施設長寿命化計画」に基づき、平成26年度より、社会資本整備交付金事業「都市公園安全・安心対策事業」にて国の補助を受けて実施している。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？						
成果動向及び原因分析	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;"> <p>年に1公園であるが、利用者が多い身近な公園を対象に行っている。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	<p>年に1公園であるが、利用者が多い身近な公園を対象に行っている。</p>	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	<p>年に1公園であるが、利用者が多い身近な公園を対象に行っている。</p>				
どちらかといえば上がっている						
上がっていない						
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？						
成果向上余地	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;"> <p>コストの増加が見込まれるが、1年あたりの再整備公園数を増加し、老朽化した公園のリニューアルを促進することにより、公園利用の促進や利用環境の向上が図られる。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	<p>コストの増加が見込まれるが、1年あたりの再整備公園数を増加し、老朽化した公園のリニューアルを促進することにより、公園利用の促進や利用環境の向上が図られる。</p>	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	<p>コストの増加が見込まれるが、1年あたりの再整備公園数を増加し、老朽化した公園のリニューアルを促進することにより、公園利用の促進や利用環境の向上が図られる。</p>				
成果向上余地 中						
成果向上余地 小						
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？						
コスト	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">ある</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;"> <p>既存施設の利活用や、国の補助事業を活用するなど、コストの低減を図ってきており、更なるコストの削減は難しい。</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	<p>既存施設の利活用や、国の補助事業を活用するなど、コストの低減を図ってきており、更なるコストの削減は難しい。</p>	なし	
ある	理由 根拠	<p>既存施設の利活用や、国の補助事業を活用するなど、コストの低減を図ってきており、更なるコストの削減は難しい。</p>				
なし						

事業名：町名板再整備事業

【事業番号 323】

開発指導課 開発指導係

政策	05 都市基盤	戦略						
取組の基本方針	01 市街地整備の推進	具体的施策						
開始年度	平成10年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

・市民
・来訪者

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 市民	人	118,979	118,971	119,510	119,510
対象指標 2					

手段（事務事業の内容、手法）

1. 市街化区域内の角地や町名界にある建物に所有者の同意を得た後、街区型町名板を貼付
2. 江別の顔づくり事業により新たに整備された交差点に信号機型町名板を整備

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 街区型町名板整備数	枚	232	201	345	95
活動指標 2 信号機型町名板整備数	ヶ所	0	0	1	1

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

市民及び市外来訪者等に町名や地番をわかりやすい状態にする

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 所在確認の問い合わせ件数	件	8	3	0	2
成果指標 2					

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)	千円	1,768	1,662	1,646	1,179
正職員人件費 (B)	千円	3,809	3,814	3,844	3,871
総事業費 (A+B)	千円	5,577	5,476	5,490	5,050

事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
元年度 1. 街区型町名板 ～住民及び来訪者の利便性を図る ・市民要望による街区型町名板の貼付 ・未貼付箇所等現況調査及び意向確認、貼付 2. 信号機型町名板 ～住民及び来訪者の利便性を図る ・信号機型町名板の整備	・街区型町名板整備費 983千円 ・信号機型町名板整備費 663千円

事業開始背景

町名板の老朽化が著しく、市民や来訪者の利便性の向上を図る必要が生じたため。

事業を取り巻く環境変化

信号機型町名板の整備は平成27年度に完了しているが、設置から相当期間が経過し、部品劣化等による落下の危険性がある事から、平成28年度より安全点検を実施している。
 しかし、令和元年度については、江別の顔づくり事業により交差点が新設されたため、安全点検に替え、交差点1ヶ所に信号機型町名板を新設した。
 また、街区型町名板については、新しい住宅地の開発が続いており、整備の必要性が残されている。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由根拠	▶	道案内問い合わせ件数の減少
	どちらかといえば上がっている			
	上がっていない			

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由根拠	▶	現在、年次計画に基づき整備・点検を進めており、今後の進捗により成果の向上が期待できる。
	成果向上余地 中			
	成果向上余地 小			

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由根拠	▶	平成24年度以降、耐久性、経済性の費用対効果を検証した材料を採用し、コストの削減を図っているため。
	なし			

事業名：団地集会所維持管理経費

建築住宅課 住宅係

政策	05 都市基盤			戦略				
取組の基本方針	01 市街地整備の推進			具体的施策				
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

団地集会所

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	施設数	箇所	5	5	5	5
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

団地集会所の維持・管理

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	利用可能日数	日	308	308	308	307
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

集会所利用者が安心して利用できる。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	集会所使用件数	件	532	527	369	550
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	2,797	2,888	2,820	2,914
正職員人件費 (B)		千円	762	763	769	774
総事業費 (A+B)		千円	3,559	3,651	3,589	3,688

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	団地集会所の維持管理	・ 集会所管理人報酬	1,800千円
		・ 集会所燃料費	77千円
		・ 集会所光熱水費	682千円

事業開始背景
江別市営住宅入居者の共同の福祉のために整備した集会所の適正な管理を図る。
事業を取り巻く環境変化
入居者相互の親睦の場として使用されている。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）							
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？							
成果動向及び原因分析	<table border="1"> <tr> <td>上がっている</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="3">一定の使用件数を維持している。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td>上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	▶	一定の使用件数を維持している。	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	▶				一定の使用件数を維持している。	
どちらかといえば上がっている							
上がっていない							
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？							
成果向上余地	<table border="1"> <tr> <td>成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="3">主な使用は市営住宅入居者であり、成果向上の余地は小さい。</td> </tr> <tr> <td>成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	主な使用は市営住宅入居者であり、成果向上の余地は小さい。	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	▶				主な使用は市営住宅入居者であり、成果向上の余地は小さい。	
成果向上余地 中							
成果向上余地 小							
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？							
コスト	<table border="1"> <tr> <td>ある</td> <td rowspan="2" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="2">必要最小限の費用で行っている。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	▶	必要最小限の費用で行っている。	なし	
ある	理由 根拠	▶				必要最小限の費用で行っている。	
なし							

事業名：市営住宅管理経費

建築住宅課 住宅係

政策	05 都市基盤			戦略				
取組の基本方針	01 市街地整備の推進			具体的施策				
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市営住宅入居者

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市営住宅入居戸数	戸	968	949	940	1,000
対象指標 2	市営住宅入居者数	人	1,892	1,873	1,802	2,000

手段（事務事業の内容、手法）

市営住宅の家賃決定、入居者募集、選考及び決定、家賃及び敷金の徴収、徴収猶予及び減免、模様替え等の承認、明け渡し請求などの処分、入居相談、世帯人数と住戸規模のミスマッチ解消の実施。施設の維持保全及び一般修繕。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	維持修繕受付件数	件	566	556	525	550
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

市営住宅が適切に管理され、入居者が快適に生活できる（政策空家を除く）。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	入居率	%	82.1	80.7	79	84
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	46,400	51,124	51,066	52,835
正職員人件費 (B)		千円	12,951	12,203	13,068	13,160
総事業費 (A+B)		千円	59,351	63,327	64,134	65,995

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	<ul style="list-style-type: none"> 住宅の小規模修繕 住宅設備の保守点検 家賃の決定及び徴収・滞納整理 	<ul style="list-style-type: none"> 住宅の修繕費 19,491千円 保守点検等の委託費 13,868千円 	

事業開始背景
住宅に困窮する低額所得者に対して低廉な家賃で賃貸することにより、生活の安定と社会福祉の増進に寄与することを目的として整備した市営住宅の適正な管理を図る。
事業を取り巻く環境変化
老朽化した住宅が多く、適切な維持管理を図る必要がある。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）							
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？							
成果動向及び原因分析	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="3">建築後年数が経過し老朽化した住宅への入居希望者は少ない。また、傷みが激しく、入居者を募集できない住宅が増えている。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	▶	建築後年数が経過し老朽化した住宅への入居希望者は少ない。また、傷みが激しく、入居者を募集できない住宅が増えている。	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	▶				建築後年数が経過し老朽化した住宅への入居希望者は少ない。また、傷みが激しく、入居者を募集できない住宅が増えている。	
どちらかといえば上がっている							
上がっていない							
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？							
成果向上余地	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="3">建築後年数が経過し老朽化した住宅があり、随時・緊急修繕の依頼（入居者負担を含む）が多い。また、改修には限度があり、浴室の無い住宅への入居希望者は少ない。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	建築後年数が経過し老朽化した住宅があり、随時・緊急修繕の依頼（入居者負担を含む）が多い。また、改修には限度があり、浴室の無い住宅への入居希望者は少ない。	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	▶				建築後年数が経過し老朽化した住宅があり、随時・緊急修繕の依頼（入居者負担を含む）が多い。また、改修には限度があり、浴室の無い住宅への入居希望者は少ない。	
成果向上余地 中							
成果向上余地 小							
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？							
コスト	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">ある</td> <td rowspan="2" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="2">建築後年数が経過した住宅が多く、修繕件数は増加傾向である。必要最小限の修繕で対応しており、これ以上のコストの削減は困難である。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	▶	建築後年数が経過した住宅が多く、修繕件数は増加傾向である。必要最小限の修繕で対応しており、これ以上のコストの削減は困難である。	なし	
ある	理由 根拠	▶				建築後年数が経過した住宅が多く、修繕件数は増加傾向である。必要最小限の修繕で対応しており、これ以上のコストの削減は困難である。	
なし							

事業名： 弥生団地大規模改善事業

【事業番号 6176】
 建築住宅課 住宅係

政策	05 都市基盤			戦略					
取組の基本方針	01 市街地整備の推進			具体的施策					
開始年度	平成25年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	補助	補助金	事業補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市営住宅（弥生団地）

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市営住宅管理戸数	戸	223	223	223	223
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

市営住宅長寿命化計画に基づき、弥生団地の大規模改善工事を計画的に実施する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	外部改修戸数	戸	0	24	24	24
活動指標 2	設備改修戸数	戸	24	24	24	0

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

弥生団地の大規模改善工事を計画的に実施することにより、入居者が安全に安心して暮らせる市営住宅を供給する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	団地改善率（改修戸数／延べ改修戸数）	%	34.9	44.5	54.1	58.9
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	21,562	111,260	111,602	102,168
正職員人件費 (B)		千円	762	763	769	774
総事業費 (A+B)		千円	22,324	112,023	112,371	102,942

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	<ul style="list-style-type: none"> 弥生団地E棟外部改修工事（屋根改修、外壁塗装、アルミサッシ化等） 弥生団地D棟給水設備改修工事 	<ul style="list-style-type: none"> 弥生団地E棟外部改修工事 89,903千円 弥生団地D棟給水設備改修工事 20,413千円 	

事業開始背景

良質な市営住宅の供給を図るため、「江別市営住宅長寿命化計画」を策定し、市営住宅の長寿命化を図ることとした。

事業を取り巻く環境変化

計画通りに市営住宅の長寿命化型改善事業を実施している。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	▶	江別市営住宅長寿命化計画に基づき長寿命化型改善を実施している。
	どちらかといえば上がっている			
	上がっていない			

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	江別市営住宅計画に基づき長寿命化型改善事業を実施することにより、成果の向上が図られる。
	成果向上余地 中			
	成果向上余地 小			

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？

コスト	ある	理由 根拠	▶	長寿命化型改善事業に置いては、国の補助があるものの、一時的にコストが増大することとなるが、住宅建物の長寿命化が図られることにより、長期的なコストの縮減が図られる。
	なし			

事業名：住宅取得支援事業

建築指導課

政策	05 都市基盤	戦略							
取組の基本方針	01 市街地整備の推進	具体的施策							
開始年度	平成28年度	終了年度	令和元年度	区分1	廃止	区分2	単独	補助金	その他

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

親と同居・近居して住宅を取得又はリフォームを希望する世帯及び住宅取得を希望する多子世帯

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初	
対象指標 1	親と同居等して住宅取得等を希望する世帯及び住宅取得を希望する多子世帯数（特定不能）	世帯	0	0	0	0
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

補助金交付要綱に基づき、以下の要件に該当する方に対し、住宅取得費・リフォーム費用の一部を助成する。
 ・親と同居又は近居のために住宅を取得する方
 ・親と同居するためにリフォームする方
 ・住宅を取得する多子世帯（18歳未満の子が2人以上いる世帯）

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初	
活動指標 1	交付申請受付件数	件	232	244	257	0
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

多世代同居・近居支援による転出抑制、多子世帯支援による転入促進・転出抑制を図り、高齢・子育て世帯の定住化を進める。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初	
成果指標 1	支援により定住した世帯数	世帯	218	216	246	0
成果指標 2						

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)	千円	59,684	57,300	67,300	0
正職員人件費 (B)	千円	9,142	10,678	13,068	0
総事業費 (A+B)	千円	68,826	67,978	80,368	0

事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
元年度 <ul style="list-style-type: none"> 親と同居又は近居のための住宅取得費用助成 親と同居するためのリフォーム費用助成 多子世帯への住宅取得費用助成 	住宅取得費、リフォーム費用の一部助成：67,300千円

事業開始背景
人口減少問題への取組が喫緊の課題である中、まち・ひと・しごと創生総合戦略における人口減少対策として多世代による同居・近居、並びに多子世帯への住宅取得等の支援を実施する事により、定住化（転出抑制・転入促進）を促進する。
事業を取り巻く環境変化
平成28年以降人口が社会増となり、令和元年は15年ぶりに人口増となっている。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	理由根拠	<p>制度利用者の1世帯当たりの人数が約3.5人となっており、世帯員数の多い世帯の定住化が促進されていることから、計画どおり成果は上がっている。</p>
成果向上余地	理由根拠	<p>「（第1期）江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に位置付け事業を実施していたが、計画期間の満了に伴い事業を終了することになり、当初の成果は達成された。</p>
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	理由根拠	<p>事業が終了したことにより、今後新たにコストが発生することはない。</p>

政策	05 都市基盤			戦略				
取組の基本方針	01 市街地整備の推進			具体的施策				
開始年度	令和元年度	終了年度	令和 2年度	区分1	新規	区分2	補助	補助金

事務事業の目的と成果及び指標						
対象（誰、何に対して事業を行うのか）						
平成23年度に策定された、「江別市営住宅長寿命化計画」 計画期間：平成24年度～平成33年度						
指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初	
対象指標 1	市営住宅管理戸数	戸	0	0	1,201	1,129
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）						
上位計画である江別市総合計画、江別市住生活基本計画、都市計画、福祉計画などの関連計画等の内容を踏まえ「公営住宅等長寿命化計画策定指針」に基づき、現「江別市営住宅長寿命化計画」を見直す。						
指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初	
活動指標 1	委員会等開催回数	回	0	0	0	4
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）						
団地別・住棟別の修繕や改善、建替などの事業プログラムを定め、市営住宅の効率的かつ円滑な更新を行い、市営住宅の需要に的確に対応する。						
指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初	
成果指標 1	計画策定数	件	0	0	0	1
成果指標 2						

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)	千円	0	0	3,685	4,568
正職員人件費 (B)	千円	0	0	6,150	6,193
総事業費 (A+B)	千円	0	0	9,835	10,761

事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
市営住宅長寿命化計画策定調査業務委託	市営住宅長寿命化計画策定調査業務委託 3,685千円
元年度	

事業開始背景

公営住宅の効率的かつ円滑な更新を実現するため、公営住宅の長寿命化を図り、ライフサイクルコストの縮減につながる様、「公営住宅等長寿命化計画策定指針」「江別市住生活基本計画」に基づき策定する。

事業を取り巻く環境変化

予定通りに、計画策定に係る作業を進めている。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由根拠	▶	江別市営住宅長寿命化計画策定に係る作業を実施している。
	どちらかといえば上がっている			
	上がっていない			

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由根拠	▶	予定通りに、計画策定に係る作業を実施することにより、成果の向上が図られる。
	成果向上余地 中			
	成果向上余地 小			

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？

コスト	ある	理由根拠	▶	市営住宅長寿命化計画策定事業においては、国の補助があるものの、一時的にコストが増大することとなるが、策定により市営住宅の効率的かつ円滑な運用を行い、長期的なコストの縮減が図られる。
	なし			

事業名：道路景観づくり推進事業

【事業番号 260】

土木事務所道路管理課 管理係

政策	05 都市基盤	戦略						
取組の基本方針	02 交通環境の充実	具体的施策						
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

・市内の道路
・違反広告物

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 市内の国道・道道・市道実延長	km	866	860	862	864
対象指標 2					

手段（事務事業の内容、手法）

・北海道屋外広告物条例に違反するはり紙、はり札及び立看板を除却する。
・広告主への除却指導（年数回）
・違反広告物の除却（年数回）
・石狩振興局へ除却数を報告（年2回）

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 広告主への指導件数	件	1	2	1	2
活動指標 2					

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

道路の美観風致の維持、整然とした街並みとなるために違反広告物を放置しづらくなる。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 違反広告物の除却数	枚	564	237	565	500
成果指標 2					

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)	千円	1,310	968	683	507
正職員人件費 (B)	千円	1,524	1,525	1,537	1,548
総事業費 (A+B)	千円	2,834	2,493	2,220	2,055

事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
元年度 ・ 広告主への除却指導 ・ 違反広告物の除却 ・ 石狩振興局へ除却枚数を報告	・ 軍手等の消耗品 18千円 ・ 除却活動員の保険 5千円 ・ 公告調査、除却委託経費 660千円

事業開始背景
平成17年4月1日より、権限委譲により屋外広告物法に基づく事務を委任したことからこの事業を開始している。
事業を取り巻く環境変化
道路の美観風致を維持するとともに、公衆に対する危害の防止を目的とした。現在、道からの交付金を基に事業を実施している。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）							
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？							
成果動向及び原因分析	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="3">違反広告物の総数が大幅に減少している。 (平成27年度以前の除却数は、概ね1,000枚以上で推移。 最大2,444枚)</td> </tr> <tr> <td>どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td>上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	▶	違反広告物の総数が大幅に減少している。 (平成27年度以前の除却数は、概ね1,000枚以上で推移。 最大2,444枚)	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	▶				違反広告物の総数が大幅に減少している。 (平成27年度以前の除却数は、概ね1,000枚以上で推移。 最大2,444枚)	
どちらかといえば上がっている							
上がっていない							
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？							
成果向上余地	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="3">市と市民が協力して除却することにより、違法屋外広告物に対する意識が高まり、原因者が屋外広告物を貼る行為が減少する。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td>成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	市と市民が協力して除却することにより、違法屋外広告物に対する意識が高まり、原因者が屋外広告物を貼る行為が減少する。	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	▶				市と市民が協力して除却することにより、違法屋外広告物に対する意識が高まり、原因者が屋外広告物を貼る行為が減少する。	
成果向上余地 中							
成果向上余地 小							
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？							
コスト	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">ある</td> <td rowspan="2" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="2">違反広告物の減少に伴い、除却作業回数を減らしており、これ以上の削減は困難である。 (H31年度に年10回から年6回へ減少し、コスト削減を行った。)</td> </tr> <tr> <td>なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	▶	違反広告物の減少に伴い、除却作業回数を減らしており、これ以上の削減は困難である。 (H31年度に年10回から年6回へ減少し、コスト削減を行った。)	なし	
ある	理由 根拠	▶				違反広告物の減少に伴い、除却作業回数を減らしており、これ以上の削減は困難である。 (H31年度に年10回から年6回へ減少し、コスト削減を行った。)	
なし							

事業名：大麻市営駐車場管理経費

土木事務所道路管理課 管理係

政策	05 都市基盤			戦略				
取組の基本方針	02 交通環境の充実			具体的施策				
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

大麻市営駐車場

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	施設数	施設	1	1	1	1
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

指定管理者制度を活用し、施設利用者へのサービス向上及び施設管理運営の効率化を図る。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	指定管理料	千円	8,489	9,997	10,140	10,434
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

低廉な料金で駐車できる駐車場を確保することにより、駅周辺の路上駐車削減を図る。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	年間延べ利用台数	台	47,105	46,613	45,538	47,000
成果指標 2	苦情件数	件	0	0	0	0

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	8,489	9,997	10,438	11,781
正職員人件費 (B)		千円	2,285	2,288	2,306	2,322
総事業費 (A+B)		千円	10,774	12,285	12,744	14,103

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	市営駐車場の運営管理を指定管理者に委託する。 照明灯内部のPCB安定器を除去、保管	・指定管理料	10,140千円
		・PCB安定器交換	298千円

事業開始背景

昭和46年5月12日に新住宅市街地開発法に基づき譲与された駐車場を昭和46年7月15日より利用開始する。昭和53年6月20日に駐車場条例が制定される。その後昭和56年6月30日より有料化の開始。

事業を取り巻く環境変化

H18年度より指定管理者制度導入

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	➔	多くの市民に利用されており、駅周辺の路上駐車も見られないことから、計画通りである。
	どちらかといえば上がっている			
	上がっていない			

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	➔	指定管理者の対応が良く利用者には好評であるが、駐車スペースに限りがあり、平日は概ね満車状態であることから、大幅な利用者増加は見込めない。
	成果向上余地 中			
	成果向上余地 小			

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由 根拠	➔	すでに指定管理者制度を導入し、コスト削減を図っている。
	なし			

事業名：自治会排雪支援事業

土木事務所雪対策課

政策	05 都市基盤	戦略						
取組の基本方針	02 交通環境の充実	具体的施策						
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

排雪指定路線以外の市道

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市道総延長	km	832	835	835	0
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

自治会主体で実施する排雪作業に対し、ロータリ除雪車（車輛のみ）とダンプトラック（車輛と運転手）を貸与する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	排雪延長	km	346	348	301	0
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

自治会区域内の排雪作業を支援し、交通の確保を図る。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	自治会排雪実施率	%	77	76	65	0
成果指標 2	自治会排雪実施自治会数	自治会	101	102	83	0

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	188,136	272,095	122,001	0
正職員人件費 (B)		千円	4,952	5,720	3,075	0
総事業費 (A+B)		千円	193,088	277,815	125,076	0

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	自治会排雪実施にかかる作業車輛の支援	ダンプトラック／ロータリ除雪車の支援費用	122,001千円

事業開始背景

自治会区域内の排雪作業を支援し、交通の確保を図ることを目的に制定した。

事業を取り巻く環境変化

生活道路における冬期間の快適性を求める声は年々高まり、自治会排雪に対する市民の期待も大きい。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	▶	既実施自治会には定着しており、かつ微増傾向にある。 (令和元年度は例年になく少雪のため、実施を中止した自治会が多かった)
	どちらかといえば上がっている			
	上がっていない			

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	近年の新規宅造区域への導入余地があるため。
	成果向上余地 中			
	成果向上余地 小			

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？

コスト	ある	理由 根拠	▶	作業の効率化は限界であるが、道路への雪出し禁止など住民への情報発信の強化や労働環境の改善に伴い削減される余地があるため。
	なし			

事業名：除排雪事業

土木事務所雪対策課

政策	05 都市基盤	戦略	
取組の基本方針	02 交通環境の充実	具体的施策	
開始年度	—	終了年度	—
		区分1	継続
		区分2	補助
			補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

公共除排雪対象の市道及び公共施設等

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 市道総延長	km	832	835	835	837
対象指標 2					

手段（事務事業の内容、手法）

午前1時までの降雪量が10cmを超えるなど、朝方迄に除雪作業が必要と予想される場合、午前7時迄に全作業を完了するよう除雪作業を行う。
また、道路幅員の狭窄、路肩の雪堤状況等諸条件から総合的に判断し、運搬排雪作業を行う。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 除雪延長	km	729	732	734	734
活動指標 2 排雪延長	km	121	121	122	0

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

冬期間の円滑な道路交通網を確保する。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 降雪・吹雪による交通止めとなった箇所数	箇所	0	0	0	0
成果指標 2					

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)	千円	893,350	1,028,878	925,232	1,280,781
正職員人件費 (B)	千円	22,854	22,500	24,214	28,642
総事業費 (A+B)	千円	916,204	1,051,378	949,446	1,309,423

事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
元年度 除排雪事業委託	除排雪事業委託 836,121千円

事業開始背景
冬期間の安全で円滑な道路交通の確保を目的に事業を開始した。
事業を取り巻く環境変化
冬期間の交通確保のため実施されているが、生活道路も含めた排雪の充実が求められている。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）							
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？							
成果動向及び原因分析	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">上がっている</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="3">本事業並びに自治会排雪支援事業、私道除雪補助事業との連携により、道路環境が改善されている。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">どちらかといえば上がっている</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">上がっていない</td> </tr> </table>	上がっている	理由 根拠	▶	本事業並びに自治会排雪支援事業、私道除雪補助事業との連携により、道路環境が改善されている。	どちらかといえば上がっている	上がっていない
上がっている	理由 根拠	▶				本事業並びに自治会排雪支援事業、私道除雪補助事業との連携により、道路環境が改善されている。	
どちらかといえば上がっている							
上がっていない							
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？							
成果向上余地	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 大</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="3" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="3">除排雪事業本体の拡充の他、自治会排雪支援事業の拡充・連携等により成果向上が期待できる。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 中</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">成果向上余地 小</td> </tr> </table>	成果向上余地 大	理由 根拠	▶	除排雪事業本体の拡充の他、自治会排雪支援事業の拡充・連携等により成果向上が期待できる。	成果向上余地 中	成果向上余地 小
成果向上余地 大	理由 根拠	▶				除排雪事業本体の拡充の他、自治会排雪支援事業の拡充・連携等により成果向上が期待できる。	
成果向上余地 中							
成果向上余地 小							
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？							
コスト	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">ある</td> <td rowspan="2" style="background-color: #cccccc;">理由 根拠</td> <td rowspan="2" style="background-color: #cccccc;">▶</td> <td rowspan="2">費用削減・作業効率化の限界である。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc;">なし</td> </tr> </table>	ある	理由 根拠	▶	費用削減・作業効率化の限界である。	なし	
ある	理由 根拠	▶				費用削減・作業効率化の限界である。	
なし							

事業名：私道除雪補助金

土木事務所雪対策課

政策	05 都市基盤			戦略			
取組の基本方針	02 交通環境の充実			具体的施策			
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独 補助金 事業補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

一般通行の用に供する私道

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	私道除雪申請延長	km	1.54	1.54	1.54	1.54
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

自治会が行う私道除雪について、市が算定する補助基準額の2分の1以内の額を自治会に補助する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	補助金額	千円	938	976	1,032	1,315
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

私道における冬期間の交通確保を図る。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	私道除雪延長	km	1.54	1.54	1.54	1.54
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	938	976	1,032	1,315
正職員人件費 (B)		千円	381	381	384	387
総事業費 (A+B)		千円	1,319	1,357	1,416	1,702

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	私道除雪補助金10自治会 L=1.54km	私道除雪補助金 1,032千円	

事業開始背景
私道の冬期間の交通確保を図る事を目的に制定した。
事業を取り巻く環境変化
一般に利用されている私道について、冬期間の交通確保のため実施されている。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）	
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	
成果動向及び原因分析 上がっている どちらかといえば上がっている 上がっていない	理由根拠 申請延長を完遂しているため。
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？	
成果向上余地 成果向上余地 大 成果向上余地 中 成果向上余地 小	理由根拠 関連地域に浸透しており、事業継続の必要があるため。
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？	
コスト ある なし	理由根拠 費用削減・作業効率化の限界である。

事業名：不法投棄対策事業（市道）

土木事務所道路管理課 維持係

政策	05 都市基盤			戦略				
取組の基本方針	02 交通環境の充実			具体的施策				
開始年度	平成17年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市道

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市道延長	km	832	835	837	837
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

市道に不法投棄された投棄物について、巡回を行い処理する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	巡回回数	回	12	12	12	12
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

不法投棄物を処理することにより、道路の機能及び景観を維持するとともに、さらなる不法投棄発生を抑制する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	不法投棄物延べ処理件数	件	417	213	293	300
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	3,616	3,502	4,400	4,400
正職員人件費 (B)		千円	762	763	769	387
総事業費 (A+B)		千円	4,378	4,265	5,169	4,787

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	不法投棄の巡回、回収、運搬、分別の委託業務	委託費	4,400千円

事業開始背景
市の家庭系ごみの収集が平成16年10月より原則有料となったことから、不法投棄が増加するものと予想され、その対策のため
事業を取り巻く環境変化
家庭系ごみの有料化や、家電製品等についてもリサイクル料金が発生するようになり、不法投棄の要因が増加している

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）	
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	
成果動向及び原因分析	<p style="text-align: right;">不法投棄処理を実施することで快適な道路環境を維持している。</p> <p>上がっている</p> <p>理由 根拠</p> <p>どちらかといえば上がっている</p> <p>上がっていない</p>
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？	
成果向上余地	<p style="text-align: right;">重点地域における不法投棄防止啓発活動の拡大。</p> <p>成果向上余地 大</p> <p>理由 根拠</p> <p>成果向上余地 中</p> <p>成果向上余地 小</p>
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？	
コスト	<p style="text-align: right;">組織見直し等で削減してきており、これ以上のコスト削減は難しい。</p> <p>ある</p> <p>理由 根拠</p> <p>なし</p>

事業名：道路橋梁管理経費（臨時）

【事業番号 3024】

土木事務所道路管理課 維持係

政策	05 都市基盤	戦略	
取組の基本方針	02 交通環境の充実	具体的施策	
開始年度	—	終了年度	—
		区分1	継続
		区分2	単独
			補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市道

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1 市道総延長	km	832	835	837	837
対象指標 2					

手段（事務事業の内容、手法）

老朽化による施設の更新及び修繕工事

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1 実施延長	km	2	2.6	2.3	3.8
活動指標 2					

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

道路施設を常に良好な状態に保ち道路の走行性及び安全性を確保し、道路の利用者が安心して通行できる道路を維持する。

指標名	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1 道路維持管理上の不具合件数	件	858	916	724	700
成果指標 2					

事業費の推移	単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)	千円	430,586	404,476	403,279	363,559
正職員人件費 (B)	千円	13,712	13,729	13,837	13,934
総事業費 (A+B)	千円	444,298	418,205	417,116	377,493

事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
元年度 工事路線現況測量 路面凍上改修工事等	委託費 11,774千円 使用料 768千円 工事費 388,467千円 投資関係備品購入費 2,270千円

事業開始背景

高度成長期以降に整備された道路施設の老朽化に伴う更新や未整備路線の道路整備を行うために事業を開始した。

事業を取り巻く環境変化

近年、車社会の発展により、道路の安全に対する市民の関心が高まっている、また、老朽化した道路施設の更新も強く望まれている。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	老朽化した道路施設の更新や未整備路線の道路整備を実施しているため、成果は上がっている。
	どちらかといえば上がっている		
	上がっていない		

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	計画的に実施することで成果は向上する。
	成果向上余地 中		
	成果向上余地 小		

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由 根拠	これまでも経費削減の工夫を積み重ねてきており、これ以上の削減は難しい。
	なし		

事業名：道路橋梁管理経費（経常）

土木事務所道路管理課 維持係

政策	05 都市基盤	戦略						
取組の基本方針	02 交通環境の充実	具体的施策						
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市道

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	市道総延長	km	832	835	837	837
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

道路の損傷箇所の修繕・復旧対応

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	市道管理延長	km	832	835	837	837
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

道路施設を常に良好な状態に保ち、道路の走行性及び安全性を確保し、道路の利用者が安心して通行できる道路を維持する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	道路維持管理上の不具合件数	件	858	916	724	700
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	149,063	146,794	146,274	150,000
正職員人件費 (B)		千円	9,523	9,534	9,609	8,515
総事業費 (A+B)		千円	158,586	156,328	155,883	158,515

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	路面清掃委託 道路草刈委託 道路維持作業委託 舗装補修工事 原材料費（砂利、常温合材等）	維持補修関係委託料	52,775千円
		維持補修関係工事費	76,499千円
		一般原材料費	17,000千円

事業開始背景
安全な交通環境を維持するため損傷箇所の補修を行う必要があることから事業を開始した。
事業を取り巻く環境変化
道路施設の老朽化が進行し、補修箇所の要望が増加している。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）		
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
<p style="text-align: right;">工種によっては計画的に行っているが、緊急補修は計画的に実施できないため、予算との兼ね合いもあり危険回避の応急的な補修内容となっている。</p>		
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
<p style="text-align: right;">道路パトロールの強化による延命的補修の実施。</p>		
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	ある	理由根拠
	なし	
<p style="text-align: right;">これまでも経費削減の工夫を積み重ねてきており、これ以上の削減は難しい。</p>		

事業名：ロードヒーティング管理経費

【事業番号 4723】

土木事務所道路管理課 維持係

政策	05 都市基盤	戦略						
取組の基本方針	02 交通環境の充実	具体的施策						
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

路面融雪施設

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	ロードヒーティング延長	m	1,197.6	1,169.2	1,416.6	1,388.2
対象指標 2	ロードヒーティング面積	m ²	6,765.5	6,606.5	7,812.8	7,653.8

手段（事務事業の内容、手法）

冬季間において巡回、点検を実施し、正常に作動しているかどうかの確認。
更新計画を策定し老朽化している施設の更新を図り、効率的な運用を目指す。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	巡回・点検回数	回	16	16	16	16
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

ロードヒーティングを適切に管理し、円滑な移動を可能にし、市民の安全性、利便性、快適性を高める。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	管理上の不具合件数	件	2	4	6	0
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	37,802	34,129	38,668	40,647
正職員人件費 (B)		千円	762	763	769	774
総事業費 (A+B)		千円	38,564	34,892	39,437	41,421

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	光熱水費 施設等修繕費 委託費他	光熱水費	33,200千円
		施設等修繕費	4,800千円
		委託費他	668千円

事業開始背景

平成3年度のスパイクタイヤの使用禁止に伴い、道路勾配の急な交差点の交通安全の確保のため事業が開始された。

事業を取り巻く環境変化

スタッドレスタイヤの性能の向上に伴い、電気料金節約のため緩勾配箇所等、冬季間電源を入れない自治体が出てきている。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由根拠	▶	天候に左右されるが、一定の成果は上がっている。
	どちらかといえば上がっている			
	上がっていない			

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由根拠	▶	実施後の道路の安全は確保されており、これ以上の向上の余地はない。
	成果向上余地 中			
	成果向上余地 小			

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由根拠	▶	これまでも経費削減のため、天候の良い日は電源を切るなどして努めており、これ以上の削減は難しい。
	なし			

事業名：橋梁長寿命化事業

土木事務所道路管理課 維持係

政策	05 都市基盤			戦略					
取組の基本方針	02 交通環境の充実			具体的施策					
開始年度	平成26年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	補助	補助金	

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

江別市内の橋梁

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	橋梁（市道）	橋	155	147	147	147
対象指標 2	修繕が必要な橋梁数	橋	46	38	38	38

手段（事務事業の内容、手法）

- ・江別市橋梁長寿命化修繕計画（平成25年2月19日策定）に基づき修繕工事を実施する。
- ・事業の進め方については、5年を目途に定期点検を実施し、工事の優先性を検証することにより、効率的かつ効果的に計画を進める。
- ・社会資本整備総合交付金を活用し実施する。（補助率6／10）

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	当該年度修繕対象橋梁数	橋	1	5	0	3
活動指標 2						

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

計画的な予防修繕による橋梁の延命化（長寿命化）を図ることで、修繕費用等を縮減する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	修繕工事が完了した橋梁の割合	%	10.9	26.3	26.3	44.7
成果指標 2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	75,959	101,067	123,715	152,794
正職員人件費 (B)		千円	6,475	6,864	7,687	7,741
総事業費 (A+B)		千円	82,434	107,931	131,402	160,535

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	橋梁定期点検 橋梁修繕工事	点検委託	25,961千円
		修繕工事	95,554千円
		点検負担金	2,200千円

事業開始背景

江別市が管理する橋梁、147橋のうち、江別市が大きく発展した1970年～1990年代に建設された橋梁が129橋で、全体の80%以上を占めており、20年後には建設後50年を経過する橋梁の割合が50%を超え、急速に老朽化した橋梁の増大が予想される。
このため老朽化対策やコスト縮減への取組みとして江別市橋梁長寿命化修繕計画を策定し計画的な修繕工事に着手することとした。

事業を取り巻く環境変化

- ・長寿命化修繕計画策定事業費補助制度要綱（平成19年4月2日国土交通省施行）
- ・市町村を対象とした長寿命化修繕計画策定費の支援は、平成19年度～平成25年度
- ・当該計画に基づく修繕工事は、国の補助事業導入が可能となる。
- ・道路法施行規則の一部改正に基づき実施した橋梁点検結果を踏まえ、令和5年度までに修繕が必要な橋梁数を46橋から38橋に変更。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？			
成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	概ね計画に沿って事業が進捗しているため。
	どちらかといえば上がっている		
	上がっていない		
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？			
成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	国の交付金事業を活用し、概ね計画に沿って事業が進捗しているため。
	成果向上余地 中		
	成果向上余地 小		
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？			
コスト	ある	理由 根拠	国の交付金事業を活用するとともに、北海道土木積算システムの導入により、事務処理の効率化、迅速化を図っており、更なる削減は難しい。
	なし		

事業名：道路施設再整備事業

土木事務所道路管理課 維持係

政策	05 都市基盤			戦略					
取組の基本方針	02 交通環境の充実			具体的施策					
開始年度	平成26年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	補助	補助金	

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

道路施設全般

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	道路施設数	箇所	212	212	212	212
対象指標 2	対象道路延長	km	247	247	247	247

手段（事務事業の内容、手法）

道路ストック総点検事業により路面性状調査を行い、その結果をもとに舗装の適切な補修を実施する。社会資本整備総合交付金を活用し実施する。（6/10）

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	道路施設点検件数	箇所	0	0	0	1
活動指標 2	道路路面調査延長	km	0	0	0	247

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

今後、老朽化する道路施設全般について総点検を行い、落下、倒壊等の恐れのあるものは改修、修繕を図り第三者への被害を防止する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	改修、修繕箇所数	箇所	0	1	0	1
成果指標 2	改修、修繕延長	km	2.2	3	2.5	2.9

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	156,527	155,064	83,354	241,980
正職員人件費 (B)		千円	4,571	7,627	4,612	7,741
総事業費 (A+B)		千円	161,098	162,691	87,966	249,721

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	舗装修繕工事 ゾーン30路面標示	委託費	275千円
		工事費	83,079千円

事業開始背景
道路ストック点検等の法定点検が義務化され、その結果により、修繕、補修を行うため事業が開始された。
事業を取り巻く環境変化
年々老朽化が進行し、対象となる路線も増加する傾向にある。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）				
(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？				
成果動向及び原因分析	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;"> <input checked="" type="checkbox"/> 上がっている <input type="checkbox"/> どちらかといえば上がっている <input type="checkbox"/> 上がっていない </td> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td style="width: 60%; padding-left: 20px;"> <p>道路施設の点検を行うことで、落下、倒壊の恐れがある施設に対し計画的に修繕が図られる。</p> </td> </tr> </table>	<input checked="" type="checkbox"/> 上がっている <input type="checkbox"/> どちらかといえば上がっている <input type="checkbox"/> 上がっていない	理由 根拠	<p>道路施設の点検を行うことで、落下、倒壊の恐れがある施設に対し計画的に修繕が図られる。</p>
<input checked="" type="checkbox"/> 上がっている <input type="checkbox"/> どちらかといえば上がっている <input type="checkbox"/> 上がっていない	理由 根拠	<p>道路施設の点検を行うことで、落下、倒壊の恐れがある施設に対し計画的に修繕が図られる。</p>		
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？				
成果向上余地	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;"> <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地 大 <input type="checkbox"/> 成果向上余地 中 <input type="checkbox"/> 成果向上余地 小 </td> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td style="width: 60%; padding-left: 20px;"> <p>計画的に実施することで成果は向上する。</p> </td> </tr> </table>	<input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地 大 <input type="checkbox"/> 成果向上余地 中 <input type="checkbox"/> 成果向上余地 小	理由 根拠	<p>計画的に実施することで成果は向上する。</p>
<input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地 大 <input type="checkbox"/> 成果向上余地 中 <input type="checkbox"/> 成果向上余地 小	理由 根拠	<p>計画的に実施することで成果は向上する。</p>		
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？				
コスト	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;"> <input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> なし </td> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">理由 根拠</td> <td style="width: 60%; padding-left: 20px;"> <p>修繕計画を策定することにより、補助事業として事業の継続が期待できる。</p> </td> </tr> </table>	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> なし	理由 根拠	<p>修繕計画を策定することにより、補助事業として事業の継続が期待できる。</p>
<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> なし	理由 根拠	<p>修繕計画を策定することにより、補助事業として事業の継続が期待できる。</p>		

事業名：道路橋梁再整備事業

【事業番号 6173】
都市建設課 道路整備係

政策	05 都市基盤			戦略					
取組の基本方針	02 交通環境の充実			具体的施策					
開始年度	平成27年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	補助	補助金	

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市が管理する道路のうち再整備が必要な幹線道路等

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	事業路線の全体整備延長	km	0.36	0.36	1.05	2.67
対象指標 2	事業路線数	路線	1	1	1	4

手段（事務事業の内容、手法）

- ・経年劣化などにより損傷した路線について、道路改良や舗装新設などの必要な再整備を実施する。
- ・社会資本整備総合交付金を活用し実施する。（補助率6/10）

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	当該年度の工事延長	km	0.14	0.05	0.61	1.51
活動指標 2	当該年度の実施路線数	路線	1	1	1	4

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

- ・損傷した路線の再整備を行い、車両や歩行者の安全で快適な道路環境を確保する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	事業路線のうち整備済みの道路延長	km	0.31	0.36	0.61	2.12
成果指標 2	事業路線のうち整備が完了した路線数	路線	0	1	0	2

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	37,206	12,188	60,225	188,442
正職員人件費 (B)		千円	5,714	3,051	6,918	8,515
総事業費 (A+B)		千円	42,920	15,239	67,143	196,957

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	・早苗別道路の舗装工事	・早苗別道路舗装修繕工事	60,225千円

事業開始背景

市内の幹線道路等において、冬期間の凍上や老朽化等により悪化した路面状況が、車両等の通行に支障となっていることから、安全で快適な道路環境を確保する取り組みとして再整備事業を行うもの。

事業を取り巻く環境変化

・路面性状調査の結果等により、国庫補助事業の導入が可能な場合がある。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和 2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠	社会資本整備総合交付金を活用し、概ね予定どおり事業が進捗している。 。
	どちらかといえば上がっている		
	上がっていない		

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠	社会資本整備総合交付金の配分額により、事業が進捗する余地はある。
	成果向上余地 中		
	成果向上余地 小		

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由 根拠	社会資本整備総合交付金を活用するとともに、北海道土木積算システムの導入により事務処理の効率化を図っており、更なるコスト削減は難しい。
	なし		

事業名：百間境道路整備事業

【事業番号 6211】
都市建設課 道路整備係

政策	05 都市基盤			戦略					
取組の基本方針	02 交通環境の充実			具体的施策					
開始年度	平成28年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	補助	補助金	

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市が管理する道路のうち未整備の百間境道路

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標 1	事業路線の全体整備延長	km	0.37	0.84	0.47	2.84
対象指標 2	事業路線数	路線	1	2	1	4

手段（事務事業の内容、手法）

- ・未整備の百間境道路について、道路改良、道路拡幅などの必要な整備を行う。
- ・社会資本整備総合交付金を活用し実施する。（補助率6/10）

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標 1	当該年度の工事延長	km	0.16	0.16	0	0.13
活動指標 2	当該年度の実施路線数	路線	1	2	1	4

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

- ・歩道整備や狭隘部の解消により、車両や歩行者の安全で快適な道路環境を確保する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標 1	事業路線のうち整備済みの道路延長	km	0.21	0.37	0	0.13
成果指標 2	事業路線のうち整備が完了した路線数	路線	0	1	0	0

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費 (A)		千円	86,959	75,219	32,469	262,570
正職員人件費 (B)		千円	6,094	6,102	6,150	12,386
総事業費 (A+B)		千円	93,053	81,321	38,619	274,956

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
元年度	・元江別66号道路の物件調査、用地取得及び物件補償	・元江別66号道路整備工事物件調査委託	9,817千円
		・元江別66号道路整備工事に伴う用地取得	3,445千円
		・元江別66号道路整備工事に伴う物件補償	19,159千円

事業開始背景

市内を東西に走る生活幹線道路（通称、百間境道路）については、総延長が約10kmあり、幹線道路を補う重要な路線として位置づけられて整備が進められてきたが、近年は用地や財源の問題などにより、3路線約0.9kmが未整備のまま残されており、地元自治会からは早期の整備要望が寄せられていた。
平成28年3月、野幌住吉町内の私道路について寄付採納により市道となったことで、元野幌274号道路については、補助事業での整備が可能となり事業着手することとなった。

事業を取り巻く環境変化

平成26年 4月 元江別66号道路の整備要望が、自治会より寄せられる。
平成26年10月 元江別66号道路の整備について、沿線住民に意向調査を実施。
平成28年 3月 元野幌274号道路に接続する私道路が、寄付採納により市道となり、補助事業での整備が可能となる。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）

		(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	
成果動向及び原因分析	上がっている	理由根拠	社会資本整備総合交付金を活用し、概ね予定どおり事業が進捗している。
	どちらかといえば上がっている		
	上がっていない		
		(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？	
成果向上余地	成果向上余地 大	理由根拠	社会資本整備総合交付金の配分額により、事業が進捗する余地はある。
	成果向上余地 中		
	成果向上余地 小		
		(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？	
コスト	ある	理由根拠	社会資本整備総合交付金を活用するとともに、北海道土木積算システムの導入により事務処理の効率化を図っており、更なるコスト削減は難しい。
	なし		

事業名：兵村4番通り道路整備事業

【事業番号 6243】
都市建設課 道路整備係

政策	05 都市基盤			戦略					
取組の基本方針	02 交通環境の充実			具体的施策					
開始年度	平成30年度	終了年度	令和元年度	区分1	継続	区分2	補助	補助金	

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

市道兵村4番通りの未整備区間

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
対象指標1	事業路線の全体整備延長	km	0	0.15	0.15	0
対象指標2						

手段(事務事業の内容、手法)

- ・未整備区間について、道路改良、道路拡幅などの必要な整備を行う。
- ・社会資本整備総合交付金を活用し実施する。(補助率6/10)

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
活動指標1	当該年度の工事延長	km	0	0	0.15	0
活動指標2						

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

- ・歩道整備や狭隘部の解消により、車両や歩行者の安全で快適な道路環境を確保する。

指標名		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
成果指標1	事業路線のうち整備済みの道路延長	km	0	0	0.15	0
成果指標2						

事業費の推移		単位	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度当初
事業費(A)		千円	0	1,724	53,293	0
正職員人件費(B)		千円	0	3,051	6,150	0
総事業費(A+B)		千円	0	4,775	59,443	0

事業内容(主なもの)		費用内訳(主なもの)	
元年度	・兵村4番通りの拡幅に伴う用地取得及び工事等	・兵村4番通り道路整備工事に伴う用地取得	384千円
		・兵村4番通り道路整備工事	51,865千円

事業開始背景

市道兵村4番通りは、道道大麻東雁来線（通称、北回り道路）に接続する交通量の多い幹線道路であるが、車道の路面状態が悪く、歩道が狭い未整備区間があること、また、大麻小学校の通学路として歩道の拡幅を含めた安全対策が求められていることから、未整備区間の拡幅整備を行うもの。

事業を取り巻く環境変化

平成28年度末 大型店舗が出店、以後、交通量が増加
 平成29年7月 歩道の狭い危険区間について、通学路安全点検において危険であるとの指摘あり。拡幅等の安全対策が求められる。

令和元年度の実績による担当課の評価（令和2年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？

成果動向及び原因分析	上がっている	理由根拠	社会資本整備総合交付金を活用し、予定どおり令和元年度に事業が完了した。
	どちらかといえば上がっている		
	上がっていない		

(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地	成果向上余地 大	理由根拠	社会資本整備総合交付金を活用し、予定どおり令和元年度に事業が完了した。
	成果向上余地 中		
	成果向上余地 小		

(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？

コスト	ある	理由根拠	社会資本整備総合交付金を活用するとともに、北海道土木積算システムの導入により事務処理の効率化を図っており、更なるコスト削減は難しい。
	なし		